

学びの“イマ”を伝える理工学部報

# from here

実学の成果を、明日のあたりまえに。



## 冊子タイトル『from here』に込めた思い

学びの“イマ”を伝える理工学部報

# from here

時代や環境が変わっても、理工学部というこの場所が、私たちの原点であるということ。そしてここからさまざまな変化に立ち向かい、新しい価値を生み出していく。そんな決意とメッセージを込めて『from here』と名付けました。



コラム

### 人の持つ能力を再現する ロボット研究

トピックス

- 理工学部の国際交流活動
- KeiDGsの取り組みと今後 — 責任あるDE&Iの系譜 —
- 大学院改組による新専攻体制と研究ユニットについて など

# 実学の成果を、明日のあたりに。

2025年4月、矢上キャンパスに

Yagami Innovation Laboratory (YIL) という建物が誕生しました。

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」の支援のもと、産学連携の教育研究活動を展開。

信濃町キャンパスのインキュベーション施設「CRiK信濃町」とともに、国内外の社会課題解決やスタートアップを通じた新産業創出に取り組み、イノベーションを生み出す大学の機能強化を図ります。

「学問の社会実装」と「起業家・実業家の創生」の両輪で、

実学の成果を未来のコモンセンスとして成就させる

研究エコシステムを確立することが目標です。

この活動に、その先の未来に、どうぞご期待ください。



## コラム

## Column

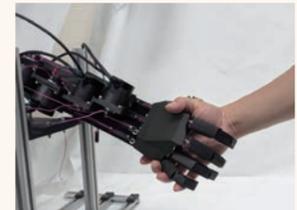
### 人の持つ能力を再現するロボット研究

ロボット研究は近年の人工知能技術の急速な発展と相まって、世界中で競争が加速しています。連日、新技術に関する論文の出版や、それに伴うニュースリリースが届く状況です。特に、これまでにロボットにとって不得意とされてきた周囲の環境変化への適応、臨機応変な動作をいかに再現させるかという課題に対して、膨大なデータベースやシミュレーションを基に行動モデルを導出できる点が人工知能技術の強みとなっています。しかしながら、まだ人間と同等の性能を有するところまでには至っていないようです。具体的には、人工知能技術により賢くなった頭に身体が付いていないようです。したがって、今度は身体を動かす機能であるアクチュエータのブレークスルーが必要となっています。ロボットは複合技術ですので、螺旋階段を上るように個々の要素技術を一段ずつ積み上げていくことで、ようやく一階分のレベルアップにつながります。

大学院理工学研究科では来年度専攻組織の改組が行われます。学科から続く一貫性を持った専門性を深める教育と併せて、「研究ユニット」の新設により分野横断的な研究が行われます。新たな学問基盤となる基礎研究と社会実装につながる応用研究の両輪をバランスよく進める良い契機となりそうです。



システムデザイン工学科  
桂 誠一郎



人の手の動きを再現するロボット

## Index 理工学部報 Vol.74

特集・コラム | 01  
 巻頭メッセージ | 03  
 常任理事メッセージ | 04  
 トピックス | 05  
 教育への新しい風／教員からのメッセージ | 09

理工学部の近況 | 10  
 矢上賞 | 15  
 就職近況 | 15  
 受賞 | 18  
 人事 | 19

訃報 | 20  
 理工学コロキウム | 21  
 お知らせ | 22

## 大学院理工学研究科の 新たなスタートと産学連携



理工学部長  
村上 俊之

慶應義塾大学大学院理工学研究科の歴史は、工学研究科として1951年に修士課程、1953年に博士課程が開設されたことから始まり、1985年に工学研究科から理工学研究科へ改組されました。その間、学科直結型の専攻が随時創設され学部8学科大学院8専攻体制となり、理工学部60周年の際に、学科直結型でない専攻として、計算機科学専攻、物質科学専攻、生体医工学専攻が新設され、8学科11専攻となりました。その後、理工学部・理工学研究科の組織構成を社会情勢の変化や社会課題の多様化に対応し得るものとするため、1996年に学科改組、2000年に大学院改組が行われ、11学科3専攻体制となり現在に至っています。現在の大学院3専攻は、基礎理工学専攻、総合デザイン工学専攻、開放環境科学専攻であり、各専攻に専修と呼ばれる分野毎の研究・教育を担う組織が設定され、特に専修は研究分野の多様化による組織改廃を柔軟に行えるものとしていました。しかしながら、教育カリキュラムの充実化と大学院における基幹教育の整備を行う中で、研究と教育を分離して柔軟な組織の改廃を行うことが難しい状況となり、こうした状況を打破すべく新たな大学院体制に関する議論が2021年より本格的に開始され、5年の歳月を経て、大学院の新体制が2026年度よりスタートすることになりました。

新しい大学院は、先端数物科学専攻、化学・生命情報科学専攻、総合デザイン工学専攻、人間・社会システム情報科学専攻の4専攻で構成され、各専攻に基幹教育の充実化をはかる学科との連続性を保つ「カリキュラム」を設置、さらに最先端の研究を推進しつつ柔軟な改廃が可能な「研究ユニット」を自由に構築できる体制としています。理工学研究科では、理学および工学のいずれにも重要な学びの場を設定しつつ、理学においては自然科

学における知識と理論、またその現象を深く理解しその諸法則を応用展開できる能力を、また工学においては「ものづくり」「コトづくり」を意識しつつ、創造的・新規的な研究開発を自立的に推進できる能力を、それぞれ習得させることを目的としています。これらの人材育成を大学院修士課程ならびに博士課程で目指し、学部の基幹教育からの連続性を担保できるように、大学院修士課程の「カリキュラム」の構造を定めることで、大学院においても安定した基幹教育を維持することが可能になっています。一方で、学問領域の発展や社会情勢に応じて改廃を柔軟に行える分野に特化した、あるいは分野融合型の「研究ユニット」の設定により、世界最先端の研究推進を博士課程の学生を交えた研究グループで実施できる創発型の研究拠点が構築でき、これを大学院新体制における研究教育の一つの重要な特徴としています。

こうした大学院の新しい体制とともに、2025年4月にYIL (Yagami Innovation Laboratory)、通称イールも竣工されました。YILは教職員や外部関係者の集いの場として活用することを目的としており、これにより理工学研究科として産学官連携を強く推進する体制を整えることや、今後の価値創造において、特に産学連携がカギを握るものとして、企業や大学が単独では成しえない成長を、すなわちそれぞれの異なる強みを活かした連携による新たな成長、さらに連携による持続的な発展の道を見出せる試みを推進できると考えています。こうした新しい大学院体制ならびにYILが研究教育の新たな場となることを強く期待したいと思っています。

最後になりますが、日頃より理工学部・理工学研究科の活性化のため、様々なご支援・ご協力を賜りました皆様に深く感謝申し上げますとともに、引き続きご支援、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

## 遊ぶ研究者



常任理事  
齋木 敏治

このたび、伊藤公平塾長のもと、5月27日付で常任理事を拝命いたしました。研究担当理事としての所信表明は塾報に寄稿させていただきましたので、ここではあえて、研究担当らしからぬ内容と受け取られることを覚悟のうえで、日頃感じていることを綴ってみたいと思います。

昨年度の理工学部退職記念講義で、外国語総合教育教室の宮川尚理先生が「労働と遊び」という題目で講演され、その中でヨハン・ホイジンガの著書『ホモ・ルーデンス（遊ぶ人）』に言及されました。そのお話が非常に印象的で、私自身が長らく言語化できずにいた思いを見事に代弁していただいたように感じたのを覚えています。ホイジンガは同書の冒頭で「遊びは文化よりも古い」と述べています。つまり、文化とは遊びを源として生まれたものであり、遊びこそが人間社会の原初的な営みであるという指摘です。この言葉には、深い示唆があると感じています。

「研究における慶應らしさとは何か」という問いは、しばしば議論の対象となります。それは突き詰めれば「慶應の研究文化」であると言い切り、そしてホイジンガの言葉を手がかりにすれば、研究においてどれだけ自由に、どんなふうに「遊べるか」が、慶應らしさの源泉であると言えるのではないのでしょうか。

ところが近年、大学の評価やランキングといった、「遊び」とはなじみにくい「真面目さ」が、私たちの営みに深く入り込んできています。用意された土俵の上で、たった一つの（あまり面白みのない）遊びに終始しているかのよ

うです。このような「真面目さ」からいつか自由になれることを願いつつ、わたしたちは慶應らしい「遊び」をどこまで追求していくべきだと考えています。その遊びには、教員・職員・学生といった立場の違いは関係ありません。目的や成果を先に定めず、発散的な思考で、やりたいようにダイナミックに研究を進める。そのプロセスの中にこそ、自然と「慶應らしさ」が立ち上がってくると期待します。面白い遊びをしようとするれば、文理融合といったことも、むしろ当然の前提のように思えてきます。

一方で、私たちには研究者としてELSIや利益相反、研究インテグリティといった、高度な倫理意識が求められています。頭ではよく理解しているつもりでも、文化や背景の異なる者同士が心から納得を共有することは、決して容易ではありません。しかし、「遊び」という視点に立つと、倫理とは「そんなことしたら、遊びとして楽しくなくなるじゃないか」というごく自然な感覚から生まれたもののように思います。子どもたちでさえ、遊ぶときには勝敗が五分五分になるようにルールを工夫し、チーム分けを調整します。なぜなら、それが楽しい遊びを続けるための秩序だからです。ホイジンガは「遊びの面白さは、いかなる分析も論理的解釈も受けつけない」と述べています。まさに「遊び」のなかに倫理の原型があると感じます。

上で触れたような「真面目さ」ではなく、本気で真面目に遊ぶ、そんな時間と空間が、これからの慶應にもっと広がっていくことを心から願っています。

## 理工学部国際交流活動

理工学部国際交流委員長  
三木 則尚



新型コロナウイルスの記憶が次第に薄れつつある中、学生たちの国際志向は年々高まっているように感じられます。慶應義塾大学理工学部では、数週間の短期プログラムから最長2年間の学位取得型プログラムまで、多彩な国際プログラムを展開し、学生の海外挑戦を積極的に後押ししています。ここで全てをご紹介するのは難しいため、ぜひ理工学部学生課国際担当のホームページ (<https://www.st.keio.ac.jp/students/ic/>) をご覧ください。留学経験者による体験談を紹介するインタラクティブ動画もご覧いただけます。

### ダブルディグリープログラム20周年を迎えて

2025年には、フランスのエコール・サントラル (EC) グループとのダブルディグリー (DD) プログラムが開始から20周年を迎えます。これまでに理工学部から128名の学生が、ECナント校、リール校、リヨン校、地中海 (旧マルセイユ) 校、サントラル・スペレック校の5校へ留学し、また304名のEC学生を受け入れてきました。本学部の学生は、学部3年次秋学期から2年間でECで学び、その後慶應義塾大学の修士課程に進学します。修了時には、慶應とECの両機関から修士相当の学位が授与されます。ECでの授業は全てフランス語で行われる上、数学や物理の水準も非常に高いため、学生たちのたゆまぬ努力には目を見張るものがあります。

この節目を記念し、2025年11月5日～6日に三田キャンパスにて記念シンポジウムを開催いたします。また、本プログラムに多大なご尽力をいただいたECナント校のフアド・ベニス (Fouad Bennis) 名誉教授に、慶應義塾より名誉博士称号を授与する予定です。詳しくは公式サイトをご覧ください (<https://www.st.keio.ac.jp/en/symposium2025.html>)。

### 欧州との連携強化と今後の展開

理工学部は欧州とのつながりが特に深く、2024年度には文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に、「日欧が相補的に提供する Learning Agreement 型国際共同学位プログラム」が採択されました。本取り組みは、大学院におけるダブルディグリープログラムをさらに加速させるもので、学部時代の国際体験や、卒業後の国際ネットワーク形成も促進します。現在、本プログラムの趣旨にご賛同いただける企業・団体からのご協賛を広く募集しております。

### 新たな国際プログラムの展開

そのほかにも、エアバス本社があるフランス・トゥールーズで開講される「ISAE-SUPAERO 春学期 航空宇宙工学プログラム」や、米国シカゴ大学コンピュータサイエンス学部での研究インターンシップなど、先進的かつ実践的なプログラムが続々と登場しています。また、各学科単位での国際連携や研究交流もますます活発になってきております。

最後になりますが、学生たちの国際活動に対して日頃より多くの皆様から温かいご支援を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。これからの未来を担う学生たちが、グローバルに活躍できるよう、理工学部として全力で支援を続けてまいります。



留学紹介インタラクティブ動画。国際担当のHPで見ることができます。

## KeiDGsの取り組みと今後 — 責任あるDE&Iの系譜 —

KeiDGs ワーキンググループ委員長  
竹村 研治郎



独立自尊、人間交際、多事争論、半学半教、こうした言葉は慶應義塾の成り立ちと目的を端的に表す言葉として受け継がれてきました。近代化の大転換期から現在まで、つねに全社会の先導者たるために慶應義塾において大切にされてきた理念で、近年意識が高まっている多様性、公平性、包摂性 (Diversity, Equity, and Inclusion, DE&I) の考え方そのものであることがわかります。理工学部の前身である藤原工業大学が掲げた基礎の重視、人間性の確立、国際交流という3つの教育方針と併せて、今日の理工学部・理工学研究科においても重要な行動指針と言えます。

一方で、現在では社会や組織の頑強性やレジリエンスの観点からもDE&Iの必要性が謳われています。ポードレスな現代社会がこれまで以上に複雑化し、混沌と不案が顕在化している今こそ、独立自尊や人間交際と言った慶應義塾が育んできたDE&Iの気概を意識すべく、理工学部ではKeiDGs (Keio Diversity, Equity, and Inclusion Goals) を2023年に制定しました。

KeiDGsの制定を機に、理工学部では様々なセミナーやイベントを開催しています。世界的に見て極端に均

一な環境で成長してきた多くの塾生に、多様な世界への入口を提供する海外研修では、理工学部が持つ良質なネットワークを活かして世界にチャレンジするきっかけを作っています。日本チェアスキー協会理事によるセミナーではご自身の体験やチャレンジ精神、障がいのある子供たちの自立支援活動などの話を伺い、様々な才能を活かせる社会づくりに対して塾生が科学技術の可能性を議論しました。制度的には平等でも機会の公平性に課題のある理系選択における男女格差に対しては山田進太郎D&I財団とともにGirls Meet STEMを開催しています。矢上キャンパスでは圧倒的マイノリティーな外国人に対しては留学生懇談会や、餅つきなど日本の四季を感じるイベントを開催し、国籍に関係なく楽しめる催しを提供しています。

こうしたKeiDGsに関連する活動はホームページ (<https://dei.st.keio.ac.jp/>) で随時公開しています。学部、学科、あるいは事務部門や有志がKeiDGsを指針として様々な活動を行うことで、責任ある組織として社会を先導する役割を果たしていきたいと思えます。ご賛同いただける塾員、塾生の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご支援いただけますと幸いです。



(上) 矢上キャンパス入口のKeiDGsの横断幕



(右・上・右) 日本チェアスキー協会理事 野島弘氏による講演の様子



Girls Meet STEM 2024, 2025の案内HP (山田進太郎D&I財団)

# 大学院改組による新専攻体制と研究ユニットについて

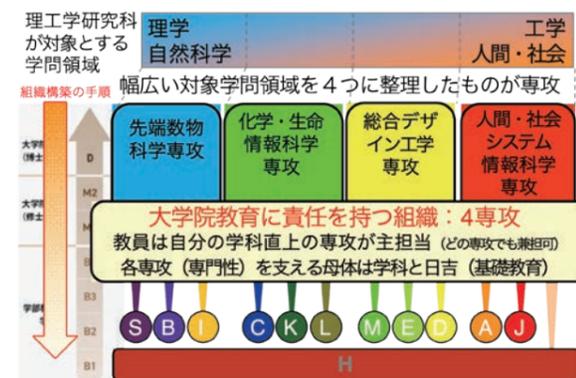
大学院専攻・専修組織改革実装委員会  
幹事 奥田 知明



2021年6月に岡田英史学部長（当時）のもとで大学院専攻・専修組織改革準備委員会（村上俊之委員長（当時））が設置され、16名の委員の一人として筆者も参加することになりました。その後、岡田常任理事および村上学部長の就任に伴い、泰岡顕治教授が委員長に就任され、筆者が幹事を拝命しました。2022年1月の準備委員会最終答申では、慶應義塾大学大学院理工学研究科における研究・教育の理念を、「大学院においては、多様性を重視しつつ、科学技術の専門性を活かして未知の領域に果敢に挑戦し、社会を先導できる研究教育を行う」と掲げ、研究においては世界最先端を目指し、教育においては最先端の研究を通じた教育を行うとして、研究の柔軟性・発展性と教育の安定性を同時に向上する組織を構築することを目指しました。続いて同検討委員会がスタートし、2023年5月には最終答申として、最先端の研究を進めるための組織として「研究ユニット（仮称）」を設置すること、学修者本位の学びを促進する多様な「単位取得コース（仮称）」を設置すること、教育に責任を持つ組織として4つの専攻を設置することが承認されました。そして2023年6月に設置された同実装委員会により、理念の実装に向けた具体的な議論が始まりました。それ以降は理工学部・研究科全体で本当に多くの議論を重ね、具体的な組織の形も文字通り二転三転しましたが、最終的には2024年2月に新専攻体制の最終答申を行いました。そして新たな大学院組織として、先端数物科学専攻、化学・生命情報科学専攻、総合デザイン工学専攻、人間・社会システム情報科学専攻、の4専攻が承認されました。これに合わせて、人材養成および教育研究上の目的を研究科共通とした上でアドミッションおよびカリキュラムポリシーを専攻毎に定め、各専攻ではそれぞれの修了要件設定の中で学修者本位の教育の実現を目指す体制としました。ここに至る経緯の全てをご説明することは到底できませんが、この専攻体制は科学技術を「理学・自然科学-工学・人間・社会」の軸から4つに整理したもので、境界領

域や分野融合を否定するものではなく、高度な専門教育の効率的な実現をシンプルな体制として目指したものになります。決して学科ありきで至った結論ではなく組織論として教育体制の安定を目指したものであり、研究の自由度や多様性は次項で説明する「研究ユニット」で確保します。

研究ユニットは、慶應理工の複数の「研究室」の教員を含む3名以上で構成される研究組織と定義され、所属学科や専攻とは関係なく自由に活動できます。研究ユニット設置の意義として、まず組織としての多様な研究アクティビティの見える化（見せる化）が挙げられます。慶應理工では既に多くの良質な研究が教員個人や学内外の共同研究の形で進んでいるため、この活発な研究活動を内外に示し、さらに良質な研究リソースを呼び込みます。さらに外部研究費や共同研究の受け皿組織を構築できます。現行の共同研究はもちろん、大型プロジェクト獲得を目指す座組や、分野连接的な取り組みや萌芽的内容に挑戦するための、時限的かつ理工学研究科の後ろ盾がある研究組織の構築を可能とします。2026年4月の正式スタートを前に現在早期登録が進められており、既に40を超える研究ユニットが提案されています。多様な研究ユニット名を眺めるだけで、次代への新たな慶應理工の取り組みに心が躍ります。教育と研究に新風が吹く新専攻体制に、ぜひご期待ください。



2026年4月よりスタートする新専攻による教育体制の概念図。なお研究体制は研究ユニットを活用する。

# YIL 開所から半年を経て：場所創りと産学連携活動の始動

システムデザイン工学科  
多田 宗弘



2025年春に矢上キャンパスに誕生したYagami Innovation Laboratory (YIL) は、開所して半年が経ちました。4月10日に開所式、6月26日にはYIL開所記念シンポジウムおよび施設お披露目会を開催し、180名を超える民間企業や地域自治体の皆さまにご参加いただきました。YILの活動趣旨や取り組みについて広くご紹介するとともに、今後の産学連携に向けた方針や協働の可能性についてご提案申し上げました。

現在、YILは学生を中心に毎日50~100名程度の利用があり、週に数回の頻度でイベントも開催されています。皆さまのおかげで、学生や教職員がYILでの出会いをきっかけに会話する機会も増え、YILのコンセプトである「集う場」が形になりつつあることを実感しています。より快適な空間の提供を目指して、運用面のさらなる改善を進めていきます。

YILのビジョンである「慶應義塾から生み出される科学・技術の知を広く社会と共有し、対話的コミュニケーションや実機・実地シミュレーションを通して、産学連携による課題解決と社会実装を目指したイノ

ベーションを創出する」を実現する施策の一環として、「YIL産学連携アライアンス」を発足いたしました。本アライアンスでは、産学連携に前向きな研究ユニットの皆さまと協力し、個々の研究室の枠を超えた融合的なユニット活動とパートナー企業の連携を支援していきます。多様な分野や専門知見を求める企業にとって、複数の教員・研究者・学生との接点を持つことは大変有意義であり、高い関心と期待が寄せられています。この取り組みを通じて、慶應義塾の先端技術からの価値創造とそれを担う次世代人材の育成を推進していきます。YILがイノベーション創出拠点として継続的に発展・運営されていくためには、皆さまのご支援とご協力が不可欠です。ご意見やご要望等がございましたら、どうぞご遠慮なくお寄せくださいますようお願い申し上げます。

YILは、皆さまのアイデアと行動と共に成長していく施設です。ぜひYILに足を運び、この「共創」の場を積極的に活用していただきたいと思います。



1階 LIVE HUB 一面ガラス張り、外からも中の様子が見えます



2階 うごかすStudio



化学科 / 基礎理工学専攻 生物化学専修

【専門】天然物化学、海洋天然物、ケミカルバイオロジー **栗澤 尚瑛** (助教)

2022年に本学化学科で学位を取得後、2023年度に助教(有期)として着任し、2025年度より助教となりました。専門は天然物化学です。自然界の生物から、病気の治療薬の候補や生命現象を探るツールとして有用な化学物質(天然物)を発見し、その構造や生物活性、作用機序を明らかにしていく研究を行っています。徐々に大学教員としての職務にも慣れ、素直で明るく聡明な学生さん達と共に目標に向かって切磋琢磨できる喜びを感じています。また、博士課程の頃よりお世話になってきた研究室のスタッフの一員として研究を継続できることは、非常に恵まれた環境であると実感しております。一方で、独立した一研究者として、独自性のある研究テーマを設定し推進することの難しさも痛感しています。これらの課題を自身の成長の機会と捉え、慶應義塾の理念である「自我作古」の精神を胸に、教育・研究活動に一層励んでまいります。



システムデザイン工学科/総合デザイン工学専攻 システム統合工学専修

【専門】メカノサーモロジー、熱工学、マイクロ・ナノマシン **橋本 将明** (専任講師)

本年4月にシステムデザイン工学科に専任講師として着任いたしました。慶應義塾大学を卒業後、同大学大学院の修士課程・博士後期課程を経て、2020年に博士学位を取得しました。その後、日本学術振興会特別研究員として名古屋大学に勤務し、続いて本学科にて助教(有期)を務めました。現在は、システムデザイン工学科にて「熱機械システムデザイン」をビジョンに掲げ、研究に取り組んでおります。具体的には、マイクロ・ナノスケールの熱膨張現象に着目し、熱駆動MEMSアクチュエーターや熱膨張メタマテリアルの開発を行っています。学生の皆さんには、研究や授業を通じて“心が熱膨張・収縮する(=ワクワクする)”ような経験を重ね、新たな価値を創造する喜びを感じてほしいと考えています。その経験が、卒業後の人生をより豊かで幸せなものにする一助となるよう、研究者・教育者として精進してまいります。



応用化学科 / 開放環境科学専攻 環境エネルギー科学専修

【専門】大気化学、大気物理、エアロゾル工学 **森 樹大** (助教)

本年4月から応用化学科の助教に着任しました。これまでは私は、東京大学で学位を取得後、東京理科大学や東京大学で特任助教を経て、本学の助教(有期)として「大気中に浮遊する微小粒子(エアロゾル)が及ぼす環境影響」について、研究と教育の活動に従事してきました。

エアロゾル粒子は、呼吸器に沈着して健康に影響を及ぼしたり、太陽光の散乱・吸収により地表面を冷却・加熱したり、半導体製造などに支障をきたしたりと、地球環境から産業まで幅広い分野に関わります。近年、帯電した粒子が呼吸器に沈着しやすいことがわかってきました。そこで私は、環境化学や大気物理学の専門性を活かし、粒子の帯電状態を計測する装置を開発し、大気観測に適用することで、大気中の帯電粒子の動態解明に取り組んでいます。装置開発やデータ解析、大気観測など幅広く挑戦できる環境下で、学生とともに楽しみながら研究を進めていきたいです。

### 機械工学科の近況

今年度は佐藤碧海助教(有期)が着任しました。機械工学科は引き続き国際化を強烈に推進しています。『工場見学』海外コースは、昨年のタイ、韓国、米国に、マレーシア、インド、フランスを加え全6コースに拡充しました。2年生の3分の1を超える46名が参加し、現地での工場見学、学生交流に大きな刺激を受けました。秋学期には英語開講科目を設置、韓国梨花女子大からの留学生を受け入れ、また1名の機械工学科学学生が同大学に留学しました。そして10名以上が卒業論文を英語で発表しました。英語での質疑応答もトップ国際学会レベルでした。3月には気候変動・応用数学分野の英国博士教育プログラムと連動し、数理科学科とともにインペリアルカレッジでシンポジウムを開催しました。社会との連携を意識し、車いす設計の演習科目では、パラリンピアンの方にご講演いただきました。学生の意識も変わったと思います。グローバル課題先進学科として、これからも果敢に挑戦する機械工学科にご期待ください。

### 電気情報工学科の近況

2024年度に引き続き、電気情報工学科主任を務めております。田中貴久教室幹事、久保亮吾学習指導副主任とともに、学科運営に取り組んでおります。

本年度3月には、フオンス、ポール教授が定年退職されました。長年にわたるご尽力に深く感謝申し上げます。吉岡健太郎君が准教授に昇格し、新たに肥後友也准教授が着任されました。

本学科では、エレクトロニクス、インフォマティクス、フォトニクスといった多様な分野を横断的に学べるカリキュラムを用意しており、学生の幅広い興味関心に応える体制を整えています。

2025年度からは、新たな取り組みとして「分野志向型入試」を開始しました。これは、電気情報工学に強い関心を持つ学生を対象にしたもので、1年次から学科に所属し、体験的学習などを含むカリキュラムを早期に受けられる点が特徴です。本年度、その第一期生が入学しており、今後の活躍が大いに期待されます。

学科のXアカウントによる情報発信に加え、今年度からは新たにInstagram(@keio\_elec)も開設しました。学生の活動や学科の魅力を発信してまいりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

### 応用化学科の近況

今年度より主任を務めております高尾です。奥田知明学習指導副主任、藤岡沙都子教室幹事とともに、学科運営に取り組んでおります。当学科では、昨年度に三浦洋平専任講師、宮崎翔専任講師(有期)、岡村俊孝助教(有期)が退職され、今年度は新たに森信之介専任講師(有期)、藤木翔吾助教(有期)、瀧井優臣助教(有期)が着任されました。また、萩原学専任講師が准教授に昇格し、森樹大助教(有期)が助教として再任されました。

この理工学部報をお読みいただいている卒業生の皆さまにおかれましては、当学科の学生実験といえば、汚い実験室で白衣を着た学生がフラスコを振っている姿を思い浮かべる方も多いかも知れません。確かに今でも白衣は着用しておりますが、実験室は大きく変わっています。現在は34棟4階にあり、室内はカラフルで明るく、安全面にも十分に配慮されています。1階から4階まで続く直線的な階段も圧巻です。矢上キャンパスにお越しの際は、ぜひご覧いただければ幸いです。



機械工学科主任

**三木 則尚**



機械工学科  
ウェブサイト



電気情報工学科主任

**田邊 孝純**



電気情報工学科  
ウェブサイト



応用化学科主任

**高尾 賢一**



応用化学科  
ウェブサイト

## 物理情報工学科の近況

2024年度に引き続き、本年度も学科主任を務めています。人事関連では2025年3月に田中敏幸教授、浪田秀郎助教（有期）が退職し、2025年4月に安藤和也准教授、田中宗准教授が教授に昇格、新居陽一准教授ならびに林克哉助教（有期）が着任しました。その結果、太田泰友教室幹事、井上正樹学習指導副主任を含め、教授15名、准教授6名、専任講師2名、助教2名総勢25名で学科運営にあたっています。新任の新居先生の専門は固体物理学とナノデバイス技術であり、量子物性と量子技術のフロンティア開拓を目指されています。学事関連では、2024年3月に4年生101名を送り出し、4月に96名を2年生に迎え、来年度は学科創立30周年を迎えます。国際化では物理情報工学科が先駆けたSAF留学プログラムの継続と今年度から短期国際プログラム「物理情報グローバルセミナー台湾」を企画しています。今後も学科の教育研究活動の活性化に努めますので、皆様からの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 管理工学科の近況

2024年度に引き続き、本年度も山田秀が学科主任を務めています。中嶋良介教室幹事、山本零学習指導副主任、25年4月着任の中村彩音助教（有期）を含め、教授13名、准教授5名、専任講師2名、助教2名総勢22名で学科運営にあたっています。一昨年度より、若手教員を中心として、中長期的視点で学科として目指す姿や方針、体制、方法などについて議論しています。管理工学科は、人間、もの、情報、金を教育研究の中核とし、現実社会の問題を解決する事例の創出、方法の開発、理論の整備を目指しています。この目指すべき姿は、時代を超えて普遍です。一方、その効果的、効率的な実現方法は、社会の状況や要請、経営環境、技術などにより変わります。持続可能性、多様性、ワークライフバランス、SDGs、ESG、AI、データサイエンス、DXなどは、この変化の例です。これらの変化ふまえ、管理工学科では人間、もの、情報、金を中核とし、現実社会の問題解決を目指し続けます。

## 数理科学科の近況

昨年度に引き続き主任を務めております。学習指導副主任の高山正宏専任講師、教室幹事の坂川博宣教授とともに学科運営にあたっています。本年3月に種村秀紀教授、南美穂子教授が定年退職されました。代わって、4月にはポワニャール・ベンジャミン准教授が着任されました。9月には中島秀太准教授が着任の予定です。また、高山正宏助教が専任講師に昇格されました。今回着任の准教授のお二人は30代半ばで、それぞれ統計学、確率論分野の最先端で活躍しておられます。この数年で数理科学科のメンバーもかなり入れ替わることになりますが、代わりに若い教員が新しい風を吹かせてくれると期待しております。

井関裕靖教授が所長を務める先端数理科学研究センターでは、昨年度後半から塾内の数学研究者全体を対象とした談話会を開催しております。他学部でも数理科学科出身の数学教員が増えており、数理科学科ではこれを機会に他学部の数学研究者とも連携を深め、よりよい研究・教育の提供に励んでまいります。

物理情報工学科主任  
松本 佳宣物理情報工学科  
ウェブサイト管理工学科主任  
山田 秀管理工学科  
ウェブサイト数理科学科主任  
厚地 淳数理科学科  
ウェブサイト

## 物理学科の近況

物理学科主任も4期目（7年目）になりました。同じく教室幹事4期目の渡邊紳一教授、今年度から学習指導副主任となられた古川俊輔准教授と共に、学科運営にあたります。

4月に、理論研究室の古川俊輔専任講師が准教授に、能崎研究室の山野井一人助教が専任講師にそれぞれ昇格しました。

今年2月、辻和彦名誉教授が逝去されました。私は学生時代に辻先生の講義を受け、慶應着任後も大変お世話になりました。辻先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。（理工学部HPにある理工学部報56号と57号には、辻先生執筆の「物理学科の近況」が載っています。）

昨年からの夏懇親会や3年生歓迎会が再開されましたが、コロナによる長期中断で先輩からの引継ぎができなかったため、準備担当の学生さんは、飲み物と食べ物の量のバランスに毎回苦労しています。「これではいかん」ということで、今年の夏の懇親会は3年担任の山本直希教授が「教育的指導」もしつつ、3年生と共に準備をしてくれており、教員一同楽しみにしています。

## 化学科の近況

本年度も教室幹事の古川良明教授、学習指導副主任の畑中美穂教授と共に、学科教員と協力して、学科運営を行っています。人事につきましては、本年3月に村木則文准教授（有期）が退職し石川県立大学に異動されました。本年4月から畑中美穂准教授が教授に昇格され、栗澤尚瑛助教（有期）が助教になりました。また、昨年9月には辻川夕貴助教（有期）が着任されました。

昨年7月には、荒牧國次名誉教授がご逝去されました。我が国の腐食化学の発展にご尽力され、化学科の創設や学生の教育においても多大な貢献をされました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

激しく移り変わっていく今日の最先端技術の目まぐるしい変化の中で、いつまでもその人の中で生き続ける朽ちない知を学生に伝えることを目標にしています。この数年間に新しく加わったメンバーと共に教員が一丸となってアクティブな教育・研究活動を目指して参ります。今後とも皆様からの変わらぬご支援を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

## システムデザイン工学科の近況

システムデザイン工学科卒業生として初めて主任を務めることになり、昨年度はあらためて本学科の歩みと役割の大きさを実感する一年となりました。さて、本年3月には中澤和夫准教授が退職され、4月には橋本将明専任講師と大西史弥助教（有期）が新たに着任されました。また、アルマザンホールへ准教授および嘉副裕准教授が教授に昇格されました。これにより、本学科は教授16名、准教授8名、専任講師4名、助教1名の計29名体制で、教育・研究活動に取り組んでいます。

大学院の改組に向けた準備も進んでおり、今後は学部から大学院まで一貫したシステムデザイン工学の研究教育体制が整う見込みです。これにより、学科創設当初の理念を活かしつつ、より柔軟で実践的な教育・研究の展開が期待されます。なお、今年度は本学科創設30周年の節目の年にあたります。これを記念し、年度末には記念シンポジウムの開催を予定しております。これまでの軌跡を振り返るとともに、今後の学科の方向性や社会との連携の可能性について考える機会にしたいと考えております。

物理学科主任  
大橋 洋士物理学科  
ウェブサイト化学科主任  
近藤 寛化学科  
ウェブサイトシステムデザイン工学科主任  
柿沼 康弘システムデザイン工学科  
ウェブサイト

## 情報工学科の近況

本年度も引き続き学科主任を務めさせていただいております。学習指導副主任は重野寛教授、教室幹事は松谷宏紀教授が務めております。また本年3月に寺岡 文男教授ならびに萩原将文教授が退職されました。4月より安達宏一准教授が着任され、本年度は教授13名、准教授7名、助教1名の計21名にて教育研究に取り組んでおります。

情報工学分野は、学科の軸足でもある通信工学、コンピュータハードウェア・ソフトウェア、インターネット、ヒューマンインタフェース、メディア情報処理に関する技術に加えて、人工知能技術の発展により急速に進化しつつあります。去年9月にカーネギーメロン大学と連携した人工知能の研究拠点「慶應 AI センター」も立ち上がり、当学科からも多くの教員が携わっております。さらに未来を見据えた通信技術を研究する教員も加わりました。情報分野の基礎教育を行うとともに、新しい教育研究の場を提供しつつあります。



情報工学科主任  
今井 倫太



情報工学科  
ウェブサイト

## 生命情報学科の近況

昨年度に引き続き、学部学習指導副主任の藤原慶准教授、大学院学習指導副主任の松原輝彦准教授、教室幹事の牛場潤一教授とともに学科運営にあたっております。人事については、長年当学科の情報系科目をご担当いただいていた榎原康文教授が選択定年を迎え、北里大学に新設された未来工学部教授にご就任されました。また、榎原研究室の秋山真那斗助教（有期）も同大学未来工学部専任講師として新たな道を歩まれることとなりました。両名のこれまでのご貢献に心より感謝申し上げます。今後は本年4月に着任された福永津嵩准教授と情報系科目の教育・研究体制を一層充実させてまいります。

生物・物理・化学・情報の四分野を大切に、それぞれの学問が融合することで生まれる独創的な研究を、学科一丸となって推進していく所存です。



生命情報学科主任  
舟橋 啓



生命情報学科  
ウェブサイト

## 日吉の近況

外国語総合教育教室では、2025年4月より、新たに朝鮮語担当の金景彩先生を迎えました。これによって、理工学部日吉では、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語の全ての諸外国語のコーディネイトにおいて、専任教員を配置することができました。金先生は、近現代韓国文学を専門として、ポストコロナリズムやサイエンスフィクション（SF）を主たる守備範囲としています。朝鮮語とともに日本語も堪能で、学生の語学学習の指導にも、大きな力となることと思います。今後、理工学部がより国際性豊かな、多様な視点をもった学部となるように、語学・総合教育の分野から貢献ができることと期待しています。また、金先生を合わせて、日吉は、男性教員10名、女性教員15名となり、理工学部では唯一ジェンダーバランスを達成している研究教育部門となります。理工学部が、女子学生、留学生をより幅広く集めていくことにおいても貢献できることと思います。



日吉主任  
小菅 隼人

## 基礎理工学専攻の最終年

大学院は来年度（2026年度）から抜本的な変革を行い、2000年から続いてきた現3専攻体制を見直し、新しく4専攻体制として出発することになります。現在の基礎理工学専攻は、数理科学専修、物理学専修、分子化学専修、物理情報専修、生物化学専修、生命システム情報専修の6専修から構成されていますが、数理科学・物理学・物理情報の3専修によって新しく先端数物科学専攻が作られ、また分子化学・生物化学・生命システム情報は、新しくできる化学・生命情報科学専攻に属することになります。また、専修という言葉ではなく、教育体制をより意識したカリキュラムという言葉が用いて、たとえば数理科学カリキュラム・物理学カリキュラムのように呼ばれることとなります。研究ユニットという研究体制を構築し、ますます充実した教育と研究の体制を構築します。というわけで、私は基礎理工学専攻の最後の専攻長ということになります。博士の学位の審査などを通じて、さまざまな分野の研究に触れることができ、大変充実した2年間でした。基礎理工学専攻は、お互いをリスペクトする雰囲気のあるすばらしい専攻であったと思います。

## 総合デザイン工学専攻の集大成

早いもので、専攻長を拝命してから本年で4年目を迎えるに至りました。専攻の運営は、専攻幹事を務める村田真悟准教授および高橋英俊准教授、学習指導副主任の佐野友彦専任講師をはじめ、山本詠士准教授、野田啓教授、蛭田勇樹准教授の各位と緊密に連携し、円滑に推進しております。併せて本専攻に設置されている、マルチディシプリナリ・デザイン科学専修、システム統合工学専修、電気電子工学専修、マテリアルデザイン科学専修、においては、それぞれ、大宮正毅教授、須藤亮教授、武岡正裕教授、石榑崇明教授が主任を務め、教育・研究の一層の充実に努めております。本年2月には、後期博士課程学生による研究進捗発表会および懇親会を開催し、活発な議論と有意義な交流が行われました。さらに、同課程の学生2名が藤原賞を受賞したほか、博士（甲）学位授与者2名には優秀研究活動賞（博士）を授与いたしました。本専攻は本年度末をもって改組される予定ではございますが、その歩みの集大成となる一年を爽やかなものとすべく、最後まで全力を尽くしてまいります所存です。

大学院理工学研究科を新たな「創発する組織」へと牽引する  
開放環境科学専攻で培われたマチ型組織としての空気感

2025年度、専攻長として3期目の任期の2年目を務めております。本年度は、佐藤貴彦、田中健一専攻幹事、佐野哲史、伴野太祐、安藤景太、杉浦裕太、成島康史学習指導副主任、ならびに各専修の高橋正樹、奥田知明、竹村研治郎、高田真吾、松林伸生主任をはじめとした皆様と、専攻の運営にあたっております。

世紀の変わり目の2000年、「創発する組織」となることをめざし、大学院理工学研究科は3専攻からなる大専攻制へと組織改革しました。それから4半世紀、開放環境科学専攻では、学部組織では、外国語・総合教育教室、機械工学科、応用化学科、管理工学科、システムデザイン工学科、情報工学科に所属するメンバーが、分野毎の垣根を取り払い、互いに尊重し合いながら融合した一つのマチ型組織を構築し、教育、研究に励んで参りました。この間に当専攻で培われたマチ型組織としての空気感は、次年度の専攻改組でスタートする4専攻からなる新たな大専攻制を、新たな「創発する組織」となるよう牽引していくはずで



基礎理工学専攻長  
栗原 将人



総合デザイン工学専攻長  
滑川 徹



総合デザイン工学専攻  
ウェブサイト



開放環境科学専攻長  
朝倉 浩一



開放環境科学専攻  
ウェブサイト

同窓会研究教育奨励基金では理工学を原点として、これまでに社会的に顕著な活動や、研究教育活動などを通して多大な社会的貢献を果たされている卒業生を奨励するため、矢上賞の表彰事業を行っています。

今年度は、10月25日（土）13時より、矢上キャンパス創想館地下2階「マルチメディアルーム」において以下6名の方を表彰いたします。

### 2025年度矢上賞

- 萩原 裕之 君（1987年 機械工学専攻修士課程修了 キヤノン株式会社 光学機器事業本部 計測機器事業推進センター 所長）
- 光藤 祐基 君（2004年 開放環境科学専攻修士課程修了 Sony AI America Inc. Lead Research Scientist/VP of AI Research ニューヨーク大学 客員研究教授）

### 2025年度矢上賞（起業支援）

- 淡田 由貴 君（2001年 生体医工学専攻修士課程修了 特定非営利活動法人 for your SMILE 代表理事）
- 渋江 峻太郎 君（2024年 機械工学科卒業 開放環境科学専攻修士課程 在籍）
- 中村 友哉 君（2025年 機械工学科卒業 開放環境科学専攻修士課程 在籍）
- 松森 祐大 君（2025年 機械工学科卒業 開放環境科学専攻修士課程 在籍）

矢上賞の詳細につきましては、理工学部ウェブサイト(<https://www.st.keio.ac.jp/education/ygprize/>)をご覧ください。

## 就職近況

Employment status

## 最近の就職活動および就職状況について

理工学部  
就職担当委員長  
大槻 知明



### 1 | キャリアを自らデザインする力を育む： 理工系学生への支援の現場から

AIやデジタル技術の進展、そして産業構造や働き方の多様化によって、理工系学生を取り巻く就職環境は年々変化と複雑さを増しています。採用意欲の高まりと就職活動の早期化が同時に進む中、学生はインターンや企業選別に追われ、自らの将来を十分に考える時間を確保しにくくなっています。こうした社会状況において、学生が納得のいく進路を選ぶには、職業選択という枠を超えて「キャリアを自ら描く力」を養うことが極めて重要です。

理工学部では、キャリア形成支援を単なる就職活動のサポートではなく、長期的な人生設計の一部と位置づけています。たとえば、卒業生との交流を通じてキャリアを考える「キャリアデザインラウンドテーブル」は継続的に開催されており、2024年度は対面形式で2回実施されました。学生にとっては、自身の進路に関するヒントや多様なキャリアパスへの気づきを得る貴重な機会となっています。

特に理工学部は大学院進学者や留学生の比率が高く、キャリアの多様性が顕著です。そのため、博士課程の

学生、ポスドク、留学生を対象とした特別なラウンドテーブルも開催し、研究者としての将来や、日本での就業を見据えた進路選択について議論できる機会を提供しています。こうした個別性を重視した支援は、幅広い背景を持つ学生が集まる理工学部ならではの特色です。

現在就職活動を行っている2025年度卒業予定の学生についても、第一志望内々定率は前年を上回っており、全体としては順調に進んでいます。一方で、自身の志向と企業とのミスマッチに悩む学生や、結果が出ず不安を抱える学生も少なくありません。こうした学生に対しては、就職担当委員やキャリア支援オフィスが丁寧に寄り添い、個別の相談対応を行っています。

2026年度卒業予定者に向けた支援としては、4月からのオンラインガイダンス開始、5月からのオンデマンド講座配信に加え、「キャリアデザインラウンドテーブル」も継続して実施予定です。これらの取り組みは、学生が自身の価値観や適性と向き合い、将来像を主体的に描く力を高めることを目的としています。

学生への情報提供の迅速化と接点の多様化を目的に、2025年4月からInstagramによる広報を開始しました。キャリアイベントやガイダンスの情報をリアルタイムで発信し、学生が必要な支援にすぐアクセスできるよう工夫しています。学内外からの反響も大きく、今後さらに活用を広がっていく予定です。

理工学部では、学生一人ひとりが自身の興味や価値観をもとにキャリアを主体的に構想できる力を育むことを、キャリア支援の中心に据えています。そのために、専門教育と連動しながら、将来を見据えた多面的な支援を展開しています。今後も、学生が自らのキャリアを描き、意義ある人生を築いていけるよう、継続的な取り組みを進めていきます。

### 2 | 2024年度（2024年9月、2025年3月）卒業・ 修了者就職状況・就職支援活動

2024年度の就職支援活動は、昨年に引き続き対面型の交流企画、「慶應理工学生のためのキャリアデザインラウンドテーブル」を2回実施しました。7月には理工学研究科所属の博士・ポスドク・留学生を対象とした「慶應理工博士・ポスドク・留学生のキャリアデザインラウンドテーブル」を実施し、留学生には日本での今後のキャリア形成を考える貴重な機会を提供することができました。就職状況は、学部卒業生の18%が就職（技術系30%、事務系その他70%）し、修士課程への進学率は

78%でした。また、修士課程修了生の81%が就職（技術系52%、事務系その他48%）し、博士課程への進学率は10%でした。前年度に比べて、学部→修士/修士→博士への進学率増加傾向にあります。内定を得るに当たり学校推薦制度を利用した学生は学部で11%、修士で17%、就職者全体での平均値は16%で前年度より2%減少しました。次ページに就職先企業一覧を示します。

### 3 | 2025年度（2025年9月、2026年3月）卒業・ 修了者就職活動状況

企業の採用意欲は依然として高い水準にあり、例年と同様に多くの学生が希望の企業からの内々定を得ています。また、多くの企業で例年に比べてさらに採用選考が早期化する傾向がみられています。5月中旬時点で就職活動中の学生の第一志望内々定率は昨年同時期より高くなっていますが、内々定が得られない学生には、就職担当委員と学生課キャリア支援オフィスを中心に丁寧な就職支援を継続していきます。

### 4 | 2026年度（2026年9月、2027年3月）卒業・ 修了者向け就職支援

社会情勢の変化や採用活動の早期化に対応するため、4月よりオンラインでの就職支援ガイダンスを開始しました。また就職活動を支援する講座を5月より順次オンデマンド配信しています。一方で、学生のキャリア形成を主眼に置いた企画として、昨年に引き続き「慶大理工学生のためのキャリアデザインラウンドテーブル」を実施します。このセミナーは単なる就職支援ではなく、学生が自分の将来のキャリアを考える機会を提供するものです。参加した学生たちの評判も上々で、ロールモデルとなる卒業生との交流を通して自分自身のキャリアを考えるきっかけを得ています。

時代に即した情報提供として、2025年4月よりInstagramを利用した告知を開始しました。学生にとって必要な情報をいち早く提供できるよう心掛けています。2025年7月現在のフォロワー数は209名となり、利用者は順調に伸びています。

2025年9月以降は、理工学部の就職活動の特徴を説明する全体就職ガイダンスの実施や、昨年度に引き続き他大学と共催した博士キャリア支援イベントの実施も計画しています。

今後も学生がしっかりと自分たちのキャリアを形成できるよう、様々な支援活動をおこなっていきます。

表 2024年度（2024年9月、2025年3月）卒業・修了者の3名以上就職先（学部・修士合計数）

就職先	計
NTTデータグループ	27
日本アイ・ピー・エム	20
ソニーグループ	18
野村総合研究所	16
アクセンチュア	13
アビームコンサルティング	13
NTTドコモ	13
キーエンス	13
トヨタ自動車	12
日立製作所	12
EYストラテジー・アンド・コンサルティング	10
日本電気	9
富士通	9
本田技研工業	9
三菱重工業	8
富士フイルム	8
日産自動車	7
三井住友銀行	6
中外製薬	6
東京エレクトロン	6
味の素	6
PwCコンサルティング	5
パナソニックホールディングス	5
慶應義塾	5
三井物産	5
全日本空輸	5
東海旅客鉄道	5
東京瓦斯	5
AGC	4
アマゾンウェブサービスジャパン	4
キヤノン	4

## 昨年との比較

- 上位8社：エヌ・ティ・ティ・データ（昨年15名）、日本アイ・ピー・エム（昨年13名）、ソニーグループ（昨年19名）、野村総合研究所（昨年25名）、アクセンチュア（昨年12名）、アビームコンサルティング（昨年6名）、エヌ・ティ・ティ・ドコモ（同13名）、キーエンス（昨年5名）3名以上就職した企業への就職者数：371名、52%（昨年375名、53%）
- 公務員：7名（昨年11名） 中学高校教員：2名（昨年3名）

## 博士課程修了者・単位取得退学者（計65名）の進路

修了者（49名）と単位取得退学者（16名）

- 就職：55名（企業等：38名、大学等：5名、在職ドクターの復職※：12名）  
※「現職」又は「復職」との学生届出による
- その他：5名
- 未報告：5名

## 留学生の進路

学部卒業者（0名）

修士修了者（62名）

- 就職：19名（日本：11名、国外：8名）
- 進学：3名
- その他：34名
- 未報告：6名

博士修了者と単位取得退学者（10名）

- 就職：8名（日本：7名、国外：1名）
- その他：2名
- 未報告：0名

就職先	計
デロイトトーマツコンサルティング	4
みずほ銀行	4
三菱UFJ銀行	4
三井住友信託銀行	4
三菱電機	4
第一三共	4
日鉄ソリューションズ	4
富士フイルムビジネスソリューション	4
A. T. カーニー	3
JFEエンジニアリング	3
KDDI	3
NECソリューションイノベータ	3
SMBC日興証券	3
サントリーホールディングス	3
ソフトバンク	3
デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー	3
マッキンゼー・アンド・カンパニー・インコーポレイテッド・ジャパン	3
旭化成	3
JERA	3
クボタ	3
コーセー	3
リコー	3
三菱商事	3
鹿島建設	3
森永乳業	3
その他	338
<b>合計</b>	<b>709</b>

就職者合計内訳：学部160名、修士549名  
卒業・修了者数：学部876名、修士669名

## ◆栗田 治

「第49回日本オペレーションズ・リサーチ学会 普及賞」  
受賞日：2024年3月7日  
授賞者：公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

## ◆杉山 有紀子

「日本オーストリア文学会賞（論文部門）」  
受賞日：2024年6月9日  
授賞者：日本オーストリア文学会

## ◆川久保 俊、他

「The WSBE24 Conference Outstanding Contribution Award」  
受賞日：2024年6月14日  
授賞者：World Sustainable Built Environment Conference 2024

## ◆川久保 俊

「The WSBE24 Conference Top Reviewer Award」  
受賞日：2024年6月14日  
授賞者：World Sustainable Built Environment Conference 2024

## ◆大槻 知明

「Asia-Pacific Artificial Intelligence Association (AAIA) Fellow」  
受賞日：2024年8月20日  
授賞者：アジア太平洋人工知能協会（AAIA）

## ◆井上 正樹

「2024年度計測自動制御学会論文賞」  
受賞日：2024年8月29日  
授賞者：公益社団法人 計測自動制御学会

## ◆垣村 尚徳

「日本オペレーションズ・リサーチ学会 第14回研究賞」  
受賞日：2024年9月10日  
授賞者：日本オペレーションズ・リサーチ学会

## ◆山田 秀

「2024年度 日経品質管理文献賞」  
受賞日：2024年10月1日  
授賞者：一般社団法人 日本科学技術連盟

## ◆桂 誠一郎

「Istvan Nagy Award」  
受賞日：2024年10月2日  
授賞者：PEMC Council

## ◆大槻 知明、他

「2024 第4回人工知能・仮想現実・可視化国際会議（AIVRV2024）最優秀論文賞」  
受賞日：2024年11月2日

授賞者：2024 第4回人工知能・仮想現実・可視化国際会議（AIVRV2024）委員会

## ◆蛭田 勇樹

「クロマトグラフィー学会奨励賞」  
受賞日：2024年11月7日  
授賞者：クロマトグラフィー学会

## ◆藤代 一成、他

「芸術科学会論文誌第22回論文賞」  
受賞日：2024年11月8日  
授賞者：一般社団法人 芸術科学会

## ◆川久保 俊、他

「第19回日本応用老年学会大会優秀発表賞」  
受賞日：2024年11月10日  
授賞者：一般社団法人 日本応用老年学会

## ◆横森 剛、他

「2024年度日本燃焼学会論文賞」  
受賞日：2024年11月26日  
授賞者：一般社団法人 日本燃焼学会

## ◆大槻 知明、他

「The 2024 6th International Conference on Robotics, Intelligent Control and Artificial Intelligence (RICAI2024), ベストペーパー賞」  
受賞日：2024年12月8日

授賞者：The 2024 6th International Conference on Robotics, Intelligent Control and Artificial Intelligence (RICAI2024) 委員会

## ◆田邊 孝純

「Optica フェロー」  
受賞日：2025年1月30日  
授賞者：Optica

## ◆寺川 光洋

「Optica フェロー」  
受賞日：2025年1月30日  
授賞者：Optica

## ◆吉岡 健太郎

「テレコムシステム技術賞奨励賞」  
受賞日：2025年3月12日  
授賞者：公益財団法人電気通信普及財団

## ◆鳴海 紘也

「2024年度 マイクロソフト情報学研究賞」  
受賞日：2025年3月14日  
授賞者：一般社団法人 情報処理学会

## ◆栗原 将人、他

「2025年JMSJ 論文賞」  
受賞日：2025年3月19日  
授賞者：一般社団法人 日本数学会

## ◆種村 秀紀、他

「2025年JMSJ 論文賞」  
受賞日：2025年3月19日  
授賞者：一般社団法人 日本数学会

## ◆津田 裕之

「電子情報通信学会フェロー」  
受賞日：2025年3月26日  
授賞者：一般社団法人 電子情報通信学会

## ◆中嶋 敦

「第77回日本化学会賞」  
受賞日：2025年3月27日  
授賞者：公益社団法人 日本化学会

## ◆森 貴司

「American Physical Society Outstanding Referee」  
受賞日：2025年4月4日  
授賞者：アメリカ物理学会（American Physical Society）

## ◆石上 玄也、他

「令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（科学技術振興部門）」  
受賞日：2025年4月15日  
授賞者：文部科学省

## ◆杉浦 裕太

「令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」  
受賞日：2025年4月15日  
授賞者：文部科学省

## ◆山本 詠士

「令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞」  
受賞日：2025年4月15日  
授賞者：文部科学省

## ◆志澤 一之

「日本塑性加工学会 2025年度功労賞」  
受賞日：2025年5月14日  
授賞者：一般社団法人 日本塑性加工学会

## ◆横森剛教授、他

「The 14th Asia-Pacific Conference on Combustion (ASPACC 2023), Best Paper Award」  
受賞日：2025年5月21日

授賞者：The 14th Asia-Pacific Conference on Combustion (ASPACC 2023)

## ◆栄長 泰明

「第36回 向井賞」  
受賞日：2025年5月26日  
授賞者：公益財団法人 東京応化科学技術振興財団

## ◆河野 健二

「2024年度 情報処理学会フェロー」  
受賞日：2025年6月11日  
授賞者：一般社団法人 情報処理学会

## ◆池田 真弓

「西洋中世学会 第8回ポスター賞 審査員賞」  
受賞日：2025年6月15日  
授賞者：西洋中世学会

## ◆大澤 友紀子

「第38回安藤博記念学術奨励賞」  
受賞日：2025年6月28日  
授賞者：一般財団法人 安藤研究所

## 新任

●教授					
●准教授					
電気情報工学科	肥後 友也	量子機能材料/トポロジカル物質/反強磁性スピントロニクス	情報工学科	安達 宏一	無線通信/信号処理/loT
物理情報工学科	新居 陽一	固体量子物性/ナノデバイス/トポロジカルフォノニクス	生命情報学科	福永 津嵩	バイオインフォマティクス/機能ゲノミクス/ゲノム配列解析
数理科学科	ポワニヤール, ベンジャミン	統計学/計量経済学/多変量時系列モデル			
●専任講師					
外国語・総合教育教室	金 景彩	韓国文学/ポストコロニアリズム/普遍性	応用化学科	森 信之介 (有期)	化学生態学/天然物化学
システムデザイン工学科	橋本 将明	メカ/サーモロジー/熱工学/マイクロ・ナノマシン	生命情報学科	鈴木 量 (有期)	生命物理学/医学物理学/アクティブマター物理学
●助教					
応用化学科	森 樹大	大気化学/大気物理/エアロソル工学	化学科	辻川 夕貴 (有期)	表面・界面科学/低次元物質
化学科	栗澤 尚瑛	天然物化学/海洋天然物/ケミカルバイオロジ	システムデザイン工学科	大西 史弥 (有期)	ロボティクス/機械学習/ソーシャルロボットナビゲーション
機械工学科	佐藤 碧海 (有期)	分子シミュレーション/ソフトマター/ナノコンポジット材料	情報工学科	史 小丹 (有期)	歩行者軌跡予測/歩行者間の社会的相互作用/時系列予測
応用化学科	瀧井 優臣 (有期)	有機機能材料/有機ラジカル/分子磁性	KIPAS 研究員	臼杵 峻亮 (有期)	力学系/エルゴード理論/数論への応用
応用化学科	藤本 翔吾 (有期)	有機合成化学/反応開発/天然物合成	KIPAS 研究員	山田 純平 (有期)	ナノマテリアル/結晶成長/発光デバイス
物理情報工学科	林 克哉 (有期)	イオン源プラズマ/イオンビーム工学/数値シミュレーション	KIPAS 研究員	ユンジェン(有期)	物理/スピントロニクス/オービトロニクス
管理工学科	中村 彩音 (有期)	応用確率論/待ち行列理論/待ち行列ゲーム			

## 昇格

●教授					
外国語・総合教育教室	荒金 直人	哲学/科学論/フランス語	物理情報工学科	田中 宗	量子アニーリング/量子コンピューティング/イジングマシン
機械工学科	荒井 規允	分子シミュレーション/ソフトマター/自己集合	化学科	畑中 美穂	理論化学/計算化学/マテリアルズ・インフォマティクス
機械工学科	石上 玄也	フィールドロボティクス/テレメカニクス/宇宙探査工学	システムデザイン工学科	アルマザン カバジェーロ, ホルヘ	公共空間/ディジタルスペース/雑居アーキテクチャー
物理情報工学科	安藤 和也	スピントロニクス/スピン量子物性	システムデザイン工学科	嘉副 裕	マイクロ・ナノ流体工学/流体科学/超解像計測
●准教授					
電気情報工学科	吉岡 健太郎	3D センシング/アナログ回路/機械学習ハードウェア	物理学科	古川 俊輔	物性理論/冷却原子系/磁性
応用化学科	萩原 学	無機材料化学/電子セラミックス/誘電体			
●専任講師					
数理科学科	高山 正宏	偏微分方程式/退化双曲型方程式/紐の運動	物理学科	山野井 一人	磁性物理/スピントロニクス/スピンダイナミクス

## 退職

		専門	在職期間	現職
●教授				
電気情報工学科	フォンス, ポール	放射光/X線分光法/2D素材	2020/4/1 ~ 2025/3/31	理工学部非常勤講師
物理情報工学科	田中 敏幸	医用画像処理/パターン計測/測位技術	1989/4/1 ~ 2025/3/31	名誉教授、理工学部非常勤講師
数理科学科	種村 秀紀	確率論/確率微分方程式/無限粒子系	2018/4/1 ~ 2025/3/31	理工学部非常勤講師
数理科学科	南 美穂子	統計科学/多変量解析/環境リスク評価	2009/4/1 ~ 2025/3/31	名誉教授
情報工学科	寺岡 文男	インターネット/Beyond 5G (6G)/IoT	2001/4/1 ~ 2025/3/31	名誉教授
情報工学科	萩原 将文	ニューラルネットワーク/機械学習/感性工学	1987/4/1 ~ 2025/3/31	名誉教授
生命情報学科	榎原 康文	バイオインフォマティクス/がんゲノム解析/バーチャルスクリーニング	2002/4/1 ~ 2025/3/31	名誉教授、理工学部非常勤講師、理工学研究科客員教授 (非常勤)
機械工学科	ソン, ヨンナム (有期)	バイオメカニクス/有限要素解析/医療用画像処理	2024/10/1 ~ 2025/3/31	Korea University
●准教授				
外国語・総合教育教室	宮川 尚理	ユニカ・チュルン/シュルレアリスム	1989/4/1 ~ 2025/3/31	
システムデザイン工学科	中澤 和夫	生活支援ロボット/環境情報処理/機械学習	1989/4/1 ~ 2025/3/31	
機械工学科	ジロ, フレデリク (有期)	形状最適化/不確実性の定量化/非線形力学	2024/4/1 ~ 2024/9/30	Group DySCo, LTDS, Ecole Centrale de Lyon
化学科	村木 則文 (有期)	構造生物化学/蛋白質結晶学/生物無機化学	2022/9/1 ~ 2025/3/31	石川県立大学生物資源環境学部
●専任講師				
応用化学科	三浦 洋平	構造有機化学/有機蛍光体/超分子化学	2016/4/1 ~ 2025/3/31	日本サムスン株式会社
応用化学科	宮崎 翔 (有期)	天然物有機化学/生物有機化学/テルペノイド	2024/4/1 ~ 2024/8/31	東京電機大学
●助教				
機械工学科	松浦 陸 (有期)	クラスレート水和物/結晶成長/工業熱力学	2023/4/1 ~ 2025/3/31	
応用化学科	岡村 俊孝 (有期)	有機合成化学/反応開発/生物活性分子	2022/4/1 ~ 2025/3/31	山口大学工学部応用化学科
物理情報工学科	浪田 秀郎 (有期)	超伝導/相転移/磁性	2024/5/1 ~ 2025/3/31	
情報工学科	森 康祐 (有期)	インターネット/loT/分散システム	2024/4/1 ~ 2025/3/31	法政大学コンピュータ科学科 分散システム研究室
生命情報学科	秋山 真那斗 (有期)	バイオインフォマティクス/機械学習/計算機科学	2022/5/1 ~ 2025/3/31	北里大学
KIPAS 研究員	林 宏樹 (有期)	スピントロニクス/量子物性/角運動量量子輸送	2023/4/1 ~ 2025/3/31	古河電気工業株式会社

## 安西 修一郎 先生

名誉教授安西修一郎先生が2025年3月2日に86歳で逝去されました。先生は1961年に本塾工学部応用化学科を卒業された後、同年4月に本塾大学院工学研究科応用化学専攻に入學し、外部（博士論文）研究先の日本原子力研究所固体物理研究室にて量子物質の磁気転移に関する物性制御研究を行いました。そして1966年に同学科助手に着任、助教、教授を経て、1996年には理工学部学科改組により誕生した物理情報工学科に移籍し、学科の発展と後進の指導に尽力されました。量子制御の重要性を予見し、量子物質のミクロな物理状態変化に潜む真理を探究する先生からは、自我作古の精神を学ばせていただきました。先生より賜った多くのご恩に深く感謝し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。（物理情報工学科教授 的場 正憲）

## 佐藤 徹哉 先生

佐藤徹哉名誉教授が2024年6月14日に68歳でご逝去されました。先生は、1983年に本塾大学理工学部助手に着任され、2021年に定年退職されるまで38年の永きにわたり計測工学科および物理情報工学科において研究・教育にご尽力されました。先生は磁性体の研究、特にスピンガラスや磁性微粒子に関する多くの優れた業績を挙げられ、大学や企業で活躍している数多くの卒業生を育てられました。また、ワインを嗜まれ、何日もかけてフォン・ド・ヴォーをとって料理を作られるなどの一面もございました。先生には、公私にわたって数え切れない御恩を賜り、深く感謝致しております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。（物理情報工学科教授 内山 孝憲）

## 佐藤 力 先生

名誉教授佐藤力先生が2025年2月17日に92歳でご逝去されました。先生は東京大学大学院を修了後、本塾大学工学部計測工学に着任されました。1967年に35歳で教授に就任され、1997年に退職されるまで、非線形振動に関する多くの研究を手掛けられました。非線形振動の理論的な研究だけでなく、ジャイロ二輪車の研究、スマートフォンやWiFiの通信方式に使われているスペクトル拡散方式における非線形現象の研究など多くの斬新な研究成果を残されました。また、研究を通して多くの素晴らしい人材を育て上げ、社会的にも多大な貢献をされました。私自身も在学中はもちろんのこと、卒業後も長年にわたりご恩を賜った一人として深く感謝し、先生のご冥福を深くお祈り申し上げます。（名誉教授 田中 敏幸）

## 伊藤 雄二 先生

伊藤雄二名誉教授が2025年1月9日に89歳でご逝去されました。伊藤先生はエール大学で角谷静雄先生の下で学位を取られ、ブラウン大学、立教大学の教授を経て1985年に数理科学科教授に着任されました。多くの学生を育て、また運営会議議長など通して学部の運営にも大きく貢献されました。塾外においては 数学オリンピック日本選手団の団長を務めるなど数学オリンピックの活動に貢献された他、研究者の国際交流にも尽力され、日本の数学の発展に大きく寄与されました。研究においては大著「エルゴード理論とフォン・ノイマン環」の出版を始めとして際立った業績を残しておられます。日本酒をこよなく愛され、その親しみやすい人柄は多くの人たちに愛されました。伊藤先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。（名誉教授 仲田 均）

## 辻 和彦 先生

名誉教授辻和彦先生が2025年2月20日、享年78歳で急逝されました。先生は、1985年4月に慶應義塾大学理工学部の助教として、開設後間もない物理学科に着任され、2011年3月に定年退職されるまで同学科において教育・研究に尽力されました。先生は、10万気圧、1000℃といった高温高压下の液体のX線回折を、様々な元素や混合系について測定され、この「高温高压下における液体の構造と物性の研究」に対し2006年に高圧力学会から学会賞を授与されております。定年退職される年まで、学生の皆さんと共に深夜まで実験されていた真摯なお姿を忘れることはありません。先生の前駆的な業績と温かいお人柄を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。（物理学科専任講師 千葉 文野）

## 荒牧 國次 先生

名誉教授荒牧國次先生が2024年7月18日に92歳で逝去されました。先生は、1953年に本塾工学部応用化学科を卒業された後、1955年に慶應義塾大学工学部助手として着任され、専任講師、助教を経て1971年より同工学部教授、さらに1981年からは理工学部化学科教授として、1997年3月のご定年まで41年間にわたり、教育・研究に尽力されました。日吉主任、化学科主任を歴任され、また、10年間にわたり評議員を務められ、1991年からは大学院問題検討委員会委員長として大学院改革に多大なる貢献をされました。

先生は、腐食抑制剤の作用機構の解明について一貫して基礎研究を推進され、同分野の学術的発展に多大な貢献をなされ、1991年には義塾賞を受賞されました。腐食防食学会においても評議員、理事、出版委員長などを歴任され、2017年には同学会賞を受賞されるなど、名誉教授となられた以降も第一線の研究者としてご活躍されました。また教育者としても数多くの優れた人材を育てられるとともに、その温厚なお人柄は国内外の多くの方々から敬愛されておりました。先生からは、研究をひたむきに継続する大切さをはじめ、多くのことを学ばせていただきました。理工学部改組に際しての化学科へのご貢献などに感謝申し上げますとともに、慶應義塾幼稚舎にはじまる慶應義塾での歩みの中で育まれた、温かなまなざしと数々のご功績に深く敬意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（化学科教授 中嶋 敦）

## 澤 孝一郎 先生

名誉教授澤孝一郎先生が2024年10月31日に82歳で逝去されました。先生は1964年に塾工学部を卒業され、大学院を経て工学部電気工学科に着任、94年に教授に就任され、96年にはシステムデザイン工学科へ移籍されました。常に穏やかな話術と白衣を着こなすダンディな雰囲気の中で学生に慕われる一方、学科の運営や電気系の科目、実験（超電導）の整備には強いリーダーシップを発揮されて尽力されました。そうした中で私自身も多くのことをご指導いただきました。ご専門は電気機器で継電器の分野では日本の第一人者としてIEEEの国際的な賞も受賞されています。ご退職後も研究活動や学会活動でご活躍され、ご体調を崩される直前まで学位審査の副査も快くお引き受けいただきました。こうした多方面に渡るご活躍と長年にわたるご指導に敬意とともに深く感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（システムデザイン工学科教授 村上 俊之）

## 志水 清孝 先生

名誉教授志水清孝先生が2024年7月10日に85歳で逝去されました。先生は1962年に本塾工学部計測工学科を卒業され、1965年に博士課程を単位取得退学、1967年ケース工科大学（現ケースウエスタンリザーブ大学）博士課程修了Ph.D.を取得され、1968年工学部（計測工学科）助手に就任、1980年に教授に昇格され、2005年に定年退職されるまで37年の長きにわたり計測工学科、システムデザイン工学科において教育・研究に多大な貢献を果たしてこられました。先生は数理最適化、中でも最適制御理論の分野における国際的第一人者として活躍し、数多くの研究業績をあげてこられ関連図書も国内外で多く執筆されておられます。先生とは同じ会議に出張するため地方でご一緒することが多くありました。先生は野鳥観察のプロであり、キビタキの囀りを聞こうと山の中に誘われたことを思い出します。先生より賜った数々のご恩に深く感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。（システムデザイン工学科教授 大森 浩亮）

# 量子もつれを用いたアプリケーションの 社会実装に向けて

情報工学科  
佐藤 貴彦



情報工学は、計算機アーキテクチャとネットワーク技術の進歩を基盤に、多様な理論的ブレイクスルーや大規模データ利用などがアプリケーションの革新を後押ししてきました。近年はAIやロボティクス、サイバーフィジカルシステムなどの高度化・自律化が進み、私たちの生活を大きく変え始めていることを実感することも増えてきました。

これらのデジタル技術に加え、量子コンピュータ・量子インターネットを基盤とした量子アプリケーションが登場してくると、情報社会のより一層の高度化が期待されます。量子コンピュータと量子インターネットは“重ね合わせ状態”と“量子もつれ”など量子力学の概念を応用した計算機とネットワークインフラで、量子情報（量子ビット）を操作することでメモリや計算時間の観点から“従来のデジタル計算機では追従できない計算”の実現や、“インターネットでは運用できないアプリケーション”の実装を目的としています。

これらの量子情報処理系は、量子ビットを物理実装・操作する（超伝導・イオントラップ・冷却原子・光などの）量子プレーンと、エラー訂正や同期処理などを行う従来の計算機・ネットワークを基本とした古典プレーンに大別されます。近年は量子プレーンの大きな性能向上によ

り、従来のデジタル情報処理の限界を超える量子計算も可能な水準に到達しています。

しかし、私たちがパソコンやスマートフォンから実用的な量子アプリケーションを利用する社会実装（図1）を想定すると、ユーザの持つ安価・小型な量子ノードとそれに適したアルゴリズムの開発だけでなく、古典プレーンの課題も解明する必要があります。

例えば、2007年にA. Broadbentらによって提案された秘匿型量子計算という“ユーザが入出力と内容を量子コンピュータの所有者に秘匿したまま計算するアルゴリズム”があります。これを応用した量子インターネット・アプリケーションを設計するには、専門知識を必要とせずに実行可能なユーザインタフェースや通信プロトコル、物理系などを統合して自律運用する技術が必要になります（図2）。

私たちは学内外の拠点と連携し、理論物理学・実験物理学・情報工学の観点からこれらの課題に並行的に取り組んでおり、矢上キャンパスに統合実証系を構築する準備も進めています。今後の展開に期待してください。

この取り組みの一部は、内閣府ムーンショット型研究開発事業（JPMJMS226C）の支援を受けて行われました。



図1：近未来の家庭に導入された秘匿型量子計算用ノードのイメージ図。

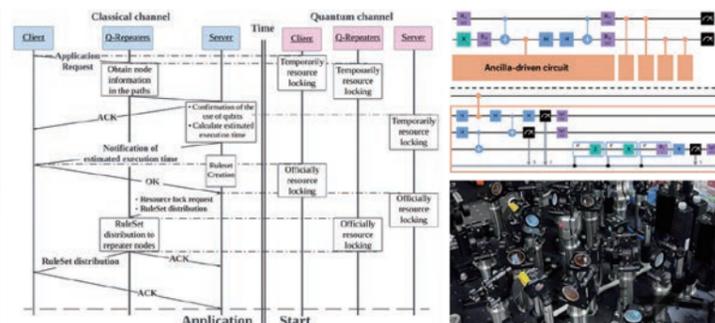


図2：秘匿型量子計算に対応した抽象的量子回路（右上）と光学系（右下）、自律運用プロトコル（左）にはギャップがあり、統合運用する技術が必要になる。

## 日吉は今

### 外国語を学ぶ楽しみ

外国語・総合教育教室 杉山 由希子

理工学部では本年度より朝鮮語の専任教員が着任し、理工学部が必修諸外国語（第二外国語の必修科目）として開講している全ての言語、すなわち、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語に専任教員が揃いました。理工学部で第二外国語が必修なのは1年次のみで、それだけでその言語が自由に話せるようになることはなかなかありません。しかし、言語は人をその人た

らしめるアイデンティティの一部であり、言語には話者の歴史や文化、思考様式が反映されています。学生が2年次以降も勉強を続けてくれれば素晴らしいですが、たとえ1年だけでも、新しい言語に出会い、自分の慣れ親しんだ文法や表現様式とは違うものに触れることは、自身の視点を相対化させる機会となると期待しています。

### 第26回矢上祭 開催に寄せて

第26回矢上祭実行委員会 委員長 齋田 和輝

今年も矢上祭の季節がやってまいりました。

日頃より矢上祭実行委員会の活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

第26回となる本年度は、「Momentum」をテーマに、9月20日（土）・21日（日）に開催いたします。25年の歩みを推進力とし、今年さらには勢いと躍動感のある矢上祭をお届けできるよう、委員一同取り組んでおります。

※詳細については矢上祭ホームページ (<https://yagamifes.com/>) をご覧ください。

今年は研究室と連携した新企画や科学実験など、理工学部ならではの企画をより充実させております。また、ライブステージや模擬店なども実施予定です。

加えて、ウェブサイトや公式アプリもデザインを一新し、より便利にご活用いただけるよう改良を重ねております。

委員一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

### KEIO TECHNO-MALL 2025（第26回 慶應科学技術展）の開催について

慶應義塾先端科学技術研究センター（KLL）では、理工学部・理工学研究科における研究成果を社会に還元し、産業界との連携を強力に推進することを目的として、KEIO TECHNO-MALL（慶應科学技術展）を開催いたします。「実学」の原点－多彩な次代への架け橋」をテーマに、実物や実演重視の展示による最新の

研究成果の積極的な発表を中心に、多彩で魅力的な内容を予定しております。多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日時 2025年12月12日（金）10:00～18:30（予定）

会場 東京国際フォーラム 地下2階（ホールE2）

※詳細についてはKLLホームページ (<https://www.kll.keio.ac.jp/ktm/>) をご覧ください。

理工学部報 Faculty of Science and Technology News

学びの“イマ”を伝える理工学部報

from here vol.74

2025年9月20日発行

発行者 千葉 徹  
編集 理工学部報編集委員会  
責任者 野崎 貴裕

発行 慶應義塾大学理工学部  
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1  
電話 (045)566-1454(ダイヤルイン)  
印刷所 株式会社 写真化学



バックナンバー  
はこちらから